

令和元年度（2019年度）行政評価シート【個表】

令和元年7月5日

評価対象事業		評価者	道路課担当課長 森 明彦		
都整-18	実施事業	国道道対策運営事務	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務	主管課	道路課
			<input type="checkbox"/> 法定受託事務	関連課	
総合計画上の位置付け	分野	道路整備	施策の方針	道路・橋りょうの整備・維持管理	

1 事業の目的

対象	市民等
意図	都市計画法、道路法等に基づき国道道の整備・改良を促進し、良好な道路交通機能等の向上を達成するため。
効果	交通渋滞の緩和、災害時を含む緊急活動の円滑化を図る。

2 平成30年度(2018年度)に実施した事業の概要

<ul style="list-style-type: none"> <li>小袋谷跨線橋の架け替えを含む腰越大船線事業に関する協議・調整を行った。</li> <li>国・県等が施工する都市計画道路等に関する協議・調整を行った。</li> <li>供用中の国・県道に関する住民要望等に対応した。</li> </ul>
--

3 事業費等基礎データ

データ区分	29年度(2017年度)決算		30年度(2018年度)決算		01年度(2019年度)当初予算		備考
	人口等のデータ	人口	176,466人	176,308人	人口	176,436人	
	世帯数	81,150世帯	81,763世帯	世帯数	82,444世帯		
	事業の対象者数			事業の対象者数			
運営資源状況	決算値(千円)	1,148	1,182	当初予算(千円)	1,283		
	国県支出金			国県支出金			
	地方債			地方債			
	その他			その他			
	一般財源	1,148	1,182	一般財源	1,283		
事業経費運営	人員配置数	1.0	1.0	人員配置数	1.0		
	人件費(千円)	8,334	8,350	人件費(千円)	8,071		
	総事業費(千円)	9,482	9,532	総事業費(千円)	9,354		
	市民1人当りの経費(円)	54	54	市民1人当りの経費(円)	53		
	対象者1人当りの経費(円)			対象者1人当りの経費(円)			

4 評価結果

※「効率性」「妥当性」「有効性」「公平性」「協働」については、プルダウンで選択。

効率性	事業費に削減余地はないか	2. ない
	関連・類似事業との統合はできないか	3. 統合できない
妥当性	事業の実施に対する市民ニーズはあるか	2. 増大している
	事業の廃止・休止による市民生活への影響は大きい	3. 廃止・休止による影響は大きくある
	今後も市が実施すべき事業か	5. 豊かな市民生活に寄与することから、今後も市が実施する必要がある
有効性	事業の成果は得られているか	3. 十分な成果が出ている
	事業の上位施策に向けた貢献度は大きい	4. 事業の方向性や手法も適切であり、大きく貢献している
公平性	受益者負担は公正・公平か	△-3. 受益者が特定できないため、受益者負担を求めることができない
協働	市民等と協働して事業を展開しているか	△-2. 市民等と協働して事業を実施することはできない
		協働実施済の場合のパートナー

事業内容の方向性	<input type="checkbox"/> a: 事業内容を見直す ⇒	見直しの種類	<input type="checkbox"/> 拡大	見直しの内容	
	<input checked="" type="checkbox"/> b: 事業内容は現状通りとする		<input type="checkbox"/> 縮小		
	<input type="checkbox"/> c: 事業を休止又は廃止する		<input type="checkbox"/> その他		
	<input type="checkbox"/> d: 他事業と統合し、本事業は廃止する ⇒				事業へ統合
予算規模の方向性	<input type="checkbox"/> A: 予算規模を拡大する	事業内容・予算規模の方向性設定の理由	非常勤嘱託員の報酬及び費用弁償が大半を占めており、引き続き国・県との連絡調整を行っていくことから予算規模は現状維持とする。		
	<input checked="" type="checkbox"/> B: 予算規模は現状維持とする				
	<input type="checkbox"/> C: 予算規模を縮小する				

総評(評価に対する考え方、根拠等)	<p>事業費については、平成19年度からの1名減員に対する非常勤嘱託員の報酬及び費用弁償が大半を占めているため事業費の削減は難しい。</p> <p>国の事業である横浜湘南道路事業、高速横浜環状南線事業及び同事業に関連する都市計画道路横浜藤沢線整備事業などについては、市民生活に直接影響するものである。これらの事業を推進するため、国・県・市・住民間の調整を行う事業として内容は妥当であり、有効性は4とした。今後、各事業の推進を支援することに努め、着実に各事業の推進を図る。</p>
-------------------	---

平成30年度(2018年度)事業実施にあつた課題(前年度未解決の事項を含む)	横浜湘南道路は、鎌倉市域をトンネルで通過することになる。このため、トンネル地上部の地上権の設定が必要となるが、その設定に当たり、土地収用法によらず事業が進められるように、住民及び関係機関との調整を行うとともに、地域住民に対して、工事施工に向けて理解を得られるように調整を行う。	
課題解決のために行った平成30年度(2019年度)の取組	横浜湘南道路では、平成30年11月に神奈川県から土地の取得の完了について通知があった。起業地の土地の取得が完了したため、土地収用法第26条の2第2項に基づく起業地を表示する図面の縦覧を終了した。今後とも、事業主体である国と連携し、事業実施が円滑に行えるよう住民及び関係機関との調整を継続して行っていく。	<input type="checkbox"/> 解決 <input checked="" type="checkbox"/> 一部解決 <input type="checkbox"/> 未解決
未解決の課題、新たな課題とその理由	関谷地区に設置するトンネルの排煙施設からの大気汚染の危惧への対応など、国と地域住民との調整協議に協力して対応するとともに、建設に向けて関係各課と調整を進める。また換気所の計画・工事に関する説明会は高速横浜環状南線と同じように行うことが望ましいため、横浜国道事務所との連絡調整が必要である。	

○ 他市比較・ベンチマーク(県内外自治体など他自治体や民間団体との比較値)

比較事項									
団体名									
他市実績									

当該事業実施に伴う他市比較に関する考え方	
----------------------	--

◎ 事業実施に係る指標

指標の内容							単位	指標の傾向	備考
当該指標を設定した理由	年次	H26(2014)	H27(2015)	H28(2016)	H29(2017)	H30(2018)	R01(2019)		
	目標値								
	実績値								
	達成率								

当該事業実施に伴う指標の推移に関する考え方	
-----------------------	--